

# 三條別院のご案内

真宗大谷派三條別院

TEL : 0256-33-0007

E-mail : sanjo-betsuin@wing.ocn.ne.jp



去る十一月五日から八日まで、宗祖の遺徳を偲び、三條別院お取り越し報恩講が執行されました。五月に厳修された宗祖七百五十回御遠忌法要後はじめての報恩講。教区内各組

から団体参拝が訪れる中、五日の報恩講お待ち受け音楽法要を皮切りに、六日の初日中からは信明院鍵役の御参修のもと三昼夜の法要が勤められ、満堂の本堂に念仏の音が響きわたりました。



存知のように、宗祖七百五十回御遠忌法要の際に用いられたもので、御遠忌で生まれたもろもろの課題を、今後引き継いでいきたいという願

## お取り越し報恩講執行

五月の宗祖七百五十回御遠忌法要後、はじめてのお取り越し

いをあらわしたものです。

■三昼夜の法要が厳肅に執行される

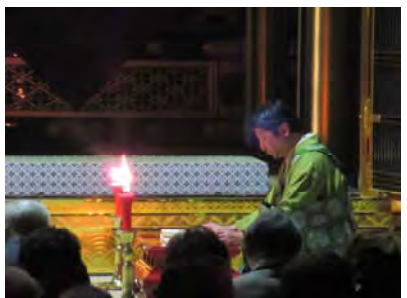
お待ち受け音楽法要では教区内女性僧侶が本年も助



【登高座する信明院鍵役】



【女性僧侶による助音（上）、衆僧・助音方（下）】



【池守輪番（上）、島津崇之氏（下）】



【藤井堂衆による御俗姓拝読】

音を勤めました。また、御遠忌法要に向けて研鑽を積んだ助音・掛役研修生が、このたびの報恩講でも助音・掛役に加勢し、北陸最大級といわれる本堂に、力強い声明が響きました。御伝鈔は上巻（五日）を池守章輪番が、下巻（六日）を島津崇之氏（第十八組満行寺）が拝読しました。御俗姓は藤井玄珠堂衆が拝読しました（七日）。

### ■法話

五日・六日の法話は一月に行われた御遠忌讃仰講演会でもお話しただいた節談説教使の祖父江佳乃氏（名古屋教区有隣寺住



【満堂の参詣者に語りかける祖父江氏】

職。

七日・八日は一楽真氏（大谷大学文学部真宗学科教授、小松教区宗圓寺住職）。

両講師とも、親鸞聖人の信心について、参詣者へ力強くお話しくださいました。

■ 帰敬式

六日、七日に信明院鍵役執行のもと、帰敬式が行われ、二十四名が法名を受け、新たに仏弟子となりました。

■ 三条の街の人々と共に



五日から七日まで、本寺小路に露店が並び、賑わいを見せました。御遠忌をきっかけに作製した報恩講を知らせるのぼりを立て、参詣者を迎え入れました。「御坊（ごぼ）さまのお取り越し」として親しまれている報恩講は、本寺小路が人で溢れる時代もあったようです。「お取り越し」や「報恩講」の本来の意味が知られなくなってきた昨今ですが、改めて街の人々とともに勤めていきたいものです。

■ 八日の結願日中にて円成を迎える

五十年に一度の御遠忌法要に比して、報恩講は「毎年欠かさず勤められる」ということで、あら



【一楽氏は三座お話しいただいた】



【剃刀の儀】

ためてその重さが感じられます。報恩講実行委員会を中心に、教区内の多くの御寺院・御門徒の力添えを得て勤められたお取り越し報恩講。このたび無事に円成を迎えることが出来たことを、御礼申し上げます。



【結願建夜に真宗学院生も出仕（右上）。晨朝講師は照光雅能氏（左上）、塚本智秀氏（左中）、池田陽氏（左下）】



三日のごぼさま寄席には本年も三遊亭金馬師匠が元気な姿を見せてくれました。また、参拝者にはお斎が提供され、大変好評でした。



## 三条別院に想う

私が、三条別院の門に入ったのは、今から九年前の真宗学院一期生としてでした。三年間という長い期間通いましたが、卒業式が別院本堂で執り行われた時は、短くて物足りなさを感じていました。学院での生活は、新鮮で刺激の連続だったからなのでしょう。お念仏の生活がそこから始まりました。共に学んだ同期の人たちとの思い出、多くの人たちのご指導がありました。

五年ほど前に教区内の御住職と縁があり、お会いしました。その方は長い間教区内でご尽力され、教区の発展に貢献された方だったので。帰り際、一冊の本をいただき、拝読してみました。本の中身はズバリ私の学院の生活の三年間を総括するものでありました。その序文に「愚僧は本山から住職拜命のあと、不敏ながら文章伝道の歩みこそ仏教興隆、真宗繁昌の道の第一方策であろうと確信し……」と書いてありました。本人は伝道師と名のり、本文中はその仏教へのおもいがギッシリ詰まり、教師としての道も詰まっているものでした。私の三年間通った真宗学院生活のモヤモヤが一気に取り払われた気がし、大切な一冊として私のお念仏の生活の一助となり、あらたな道を開かれた先達の思いは、別院とともに重い責務をなげかけて下さっているように思われます。

仏教と出遇い、宗祖に出遇う場としての別院があり、いつそう興隆することがこれからも期

待されることですし、別院は、「よき人」との出遇いの場として、また私たちのより所として在るのだと確信しています。

(佐渡組善示寺住職 松本雅裕 氏)

○次回の「三条別院に想う」は、

田伏研二氏(第十五組浄覚寺)より

ご執筆いただきます。

## 改観寺雑巾講報告

十月九日に第十九組の改観寺様より雑巾三百十一枚の贈呈式がありました。

雑巾講の始まりを調べてみると、有志の会でお世話になっていきます米山さんのお母さんである村木ムメさんが始められていました。最初は一人で始められていたのですが一人では大変という事で、多くの人に声をかけられて「講」という形になったそうです。

雑巾講では、みなで色々な話をしながら雑巾を縫い、女学院の頃を思い出された、と過去の記事にありました。

本年も、贈呈式を本堂にて行ってから別院内の諸殿のご案内をして、短い



【雑巾贈呈式での勤行】

時間ですが、法話をさせていただきました。沢山のご門徒さんからお越し頂きました。贈呈させて頂いた雑巾は、その後行われた、おみがき奉仕等で沢山使わせてもらいました。改観寺の皆様、大変ありがとうございました。

(藤井)

## 煤払い奉仕団に参加しませんか？

当別院では毎年十二月に、一年で溜まった埃を払う「煤払い奉仕団」を開催しております。本年は左記の通り行います。どなたでも参加できますので、ぜひご連絡下さい。



◇日時 十二月十三日(日)

午前九時より正午まで

◇場所 三条別院本堂

◇持ち物 勤行集、念珠

◇締切 十二月七日(月)までに当別院までご連絡ください。

◇その他 ①清掃ですので、動きやすい服装

で参加ください。

②昼食を当方でご用意いたします。

## 除夜の鐘・修正会のご案内

### 除夜の鐘

◇日時 十二月三十一日(木)

午前十一時四十五分より

◇場所 三条別院鐘楼堂

◇受付 教区同朋会館

○受付場所にて、温かい飲み物を振舞います。

### 修正会

◇日時 二〇一六年一月一日(金)

深夜午前零時より

◇場所 三条別院本堂 旧御堂

○お勤め後、輪番による新年の挨拶

**★除夜の鐘×今泉×いつもこから**  
除夜の鐘の整理券を「今泉(そば)」または「いつもこから(ラーメン)」に持参すると、五百円で年越しそば(ラーメン)が食べられるなど、特別サービスが受けられます。



## 宗祖御命日のつどい

宗祖親鸞聖人の御命日であります毎月二十八日に、「御命日の集い」を本堂にて、日中法要と法話、その後、座談会の場を開いております。どなたでもお参りいただけます。皆様のご参詣をお待ち申し上げております。

なお、前日(二十七日)はお速夜法要を、午後一時三十分よりお勤めしております。

◇日時 十一月二十八日(土) 午前十時より

◇会場 三条別院本堂

◇お勤め(御命日 日中法要)

文類偈 行四句目下

念仏讃 洵五

和讃 回口 次第六首

回向 願以此功德

◎今月の法話講師

富岡教潤氏(第十八組 圓性寺)

◆今年度の御命日の集いは講師が出渡された『數算抄』の言葉も紹介していただきます。

◇今後の講師

十二月 田澤一明氏(第十九組 明誓寺)

## 定例会話会

毎月十三日の前門首のご命日(両度の命日)に行っている定例会話会を左記の通り開催します。

◇日時 毎月十三日 ※八月、一月は除く

午後一時三十分より(二時間程度)

◇場所 三条別院 旧御堂

◇講師

九月～十二月 黒田真氏(第十一組 法蓮寺)

## その他の講座案内

○別院声明教室(全五回)

〔月一回、午後六時～八時〕

八月二十日(木)〔済〕、九月十七日(木)〔済〕

十月十四日(水)〔済〕、十一月十九日(木)〔済〕

十二月十七日(木)

講習内容 正信偈 草四句目下

講師 關根大丘氏(第二十組 松韻寺)

参加費 五〇〇円/回

○別院書道教室

〔月二回第二、第四水曜日、午後六時三十分～八時〕

講師 木原光威氏(新潟県書道協会理事)

月謝 二五〇〇円(テキスト代含む)

## 随時募集中

○三条別院巡回

三条別院の御影をお迎えして、開法会を開催しませんか?

○別院奉仕研修

日程及び内容についてはご相談ください。

◎冥加金 日帰り一五〇〇円、一泊二日二五〇〇円

◎食事代(昼・夕食は養者発注のため)

・朝食代 五〇〇円、昼食代 一〇〇〇円程度

・夕食代 一三〇〇円程度

○三条別院有志の会



もともと三条別院のお朝事にお参りしているご門徒からはじまった清掃奉仕・法話・座談を中心とした有志の会です。月一回の例会、別院行事に併せた奉仕活動や季節ごとの懇親会を行っております。参加希望の方は、ぜひ別院までご連絡ください。

### 清掃講（庭講）参加者募集！！

本年九月一日結成された清掃講（庭講）は、九月、十月、十一月と定例会を行ってきました。活動を継続するにあたり、引き続き参加者を募集しております。

本講は「定例法話聴聞と別院護持をぜひ皆でやりたい！」という声のもと、結成された講です。真宗に有縁の方々、どなたでも結構です。御興味のある方、ぜひ御一緒に参加してみませんか？活動日は毎月十三日（八月、一月を除く）の午前中です。参加希望の方はぜひ別院までご連絡をお待ちしております！



【お取り越し前の御簾の清掃】

### 御正忌報恩講団体参拝について

本年の御正忌団体参拝はお陰様で定員に達しました。なお、チラシについて、旅行業法にそぐわない面が有りましたので、お手持ちの場合は廃棄もしくは別院までご返送くださいますようお願い申し上げます。

### 私たち別院有志の会です！

こんにちは、有志の会入会二年目の佐々木了です。八年前に父が遺した「お寺さんへ行つて下さい」と白骨の御文の「後生の一大事」という言葉が私の「お寺へ行かねば」の第一歩でした。

「お寺」……、どうすれば良いのか？何をしたら良いのか？と迷う私に母が「法話を聞きに行こう」と手を引いてくれ、四年間一人で領いたり問答したり楽しく別院へ足を運びました。

今は定例法話、人生講座（暁天講座）とお取り越し報恩講で有志の会の方にお会いし一緒に聞法し、その後座談で日頃の思いを聞いてもらっています。くわえて奉仕活動、報恩講のお手伝いをさせていただき、帰りには決まって「あー今日も来て良かった」と感じてます。ぜひ、ぜひ別院へ足を運んでみてください。

（佐々木了）

### ◆◆編集後記◆◆

先般、毎朝お参りにくるご門徒に、なぜ晨朝には立燭しないのか尋ねられた。「晨朝というのは勤まらない日はないのです。必ず三六五日ずつとある。それに偶然に報恩講の重い晨朝があるだけです」（藤原暢信講述、岐阜教区准堂衆会編、『声明作法講義録』より）とあるように、たとえ報恩講であろうが、晨朝には蠟燭を立てずにお勤めする。ささいなこともかもしれないが、これは毎日勤められる晨朝を、非常に重んじている表れだと感じる。

さて、五月の教区・別院宗祖御遠忌法要が無事に円成を迎え、御遠忌後はじめてのお取り越し報恩講が執行された。毎年のこととはいえ、お盆過ぎから準備が本格的にはじまり、報恩講実行委員会を中心として、二百名以上（！）の方々に運営の面で関わっていただいている。お取り越しがはじまる前にくたくたになり、お取り越しがきて元気（？）になり、お取り越しが終わって力尽きる。それが毎年、毎年、続いている。五十年に一度しかない御遠忌法要と、毎年勤まる報恩講は、どちらが重たいだろうか？さらに考える。毎年勤まる報恩講と、毎日毎日、勤まる晨朝は、どちらが重たいだろうか？晨朝からはじまり、ただただ毎日同じ繰り返しと思っている今日一日が、実はどれほど大変なことをしているのだろうか？お取り越しを終えて、日常に戻りつつある中、そんなことを考えている。

（齋木）